

公益財団法人 日本クリスチャン・アカデミー  
2022年度事業報告

1. 事業の推進

1) 公益目的事業

(1) 関東活動センター、関西セミナーハウス活動センター

- ① フォーラム事業及び研修・セミナー・体験交流事業を継続し、発展させた。
- ② アカデミー運動の理念に従って今日的な社会の課題に対する認識を深め、それにふさわしい新規プログラムの開発に取り組んだ。

(2) 関西セミナーハウス

- ① 当財団の事業展開の拠点として、関西セミナーハウス活動センターの公益目的事業に施設を提供した。
- ② 当財団の目的達成に資する諸団体が行う公益目的事業を支援するため、宿泊施設及び会議場を諸宗教団体、労働組合、文化・社会活動団体、教育機関・学会・研究会等に供した。

(3) 広報活動

- ① 関東活動センター、関西セミナーハウス活動センター及び関西セミナーハウスの活動状況について、機関紙「はなしあい」、ウェブサイト等によって継続的に情報を発信した。
- ② 機関紙、ウェブサイト等により、年度事業計画、収支予算、事業報告、決算報告、その他当財団に関する情報を公開した。

2) 収益事業

(1) 関西セミナーハウス

公益目的利用外の一般利用者、企業等への宿泊研修施設の貸出を行い、その収益の一部を公益活動に資した。

(2) 日本キリスト教会館

当財団所有の事務所用物件の一部を貸与し、その収益を公益活動に資した。

2. 事業運営推進

公益目的事業の推進に当たっては、継続的事業、新規プログラムを問わず、予算計画を持ち、必要財源を確保しつつ、安定的継続可能な運営を行った。

3. 賛助会員、寄附金

公益法人への寄付により受けられる税制優遇措置を活用し、アカデミー運動を支援する賛助会員および寄附者からの支援を仰いだ。

## < 2022年度事業活動報告 >

### I 財団本部

#### 1. 組織（2023年3月31日現在）

##### 1) 理事会

理事 中村 信博（代表理事）、戒能 信生、神保 正男、石田 光男、  
神田 健次、榎本 栄次、神崎 清一（計7名）

##### 2) 監事

黒岩 裕二、柳井 一朗（計2名）

##### 3) 評議員会

評議員 小原 克博（評議員長）、木原 活信、増田 琴、  
横野 朝彦、原 牧人、山本 俊正（計6名）

##### 4) 事務局

神崎 清一（事務局長、他4名）

#### 2. 会議

##### 1) 理事会

第1回 理事会（定時）2022年5月31日（土）オンライン会議  
主な決議：2021年度事業報告、2021年度決算報告、  
2021年度監査報告、2022年度定時評議員会招集

第2回 理事会（臨時）2022年8月2日（火）オンライン会議  
主な決議：事務所、喫茶厨房ならびに浴室工事

第3回 理事会（臨時）2022年11月1日（火）オンライン会議  
主な決議：2023年度事業計画、予算策定スケジュール、  
役員改選の考え方とスケジュール

第4回 理事会（定時）2023年1月31日（火）オンライン会議  
主な決議：2023年度事業基本方針ならびに予算編成方針、  
役員推薦委員会設置

第5回 理事会（定時）2023年3月13日（月）オンライン会議  
主な決議：2023年度事業計画、2023年度収支予算、  
2023年度設備投資計画、関西東活動センター運営委員交  
代、関西セミナーハウス経営委員委嘱、次期役員選考委員会  
開催、事務局長ならびに顧問委嘱

##### 2) 評議員会

第1回 評議員会（定時）2022年6月18日（土）  
オンライン会議  
主な決議：2021年度事業報告、2021年度決算報告、  
2021年度監査報告、監事選任

第2回 評議員会（臨時）2023年2月15日（水）決議省略  
主な決議：次期役員推薦委員会委員選出

#### 3. 広報

機関紙「はなしあい」発行

2022年5・6・7月（626号）、8・9・10月（627号）、

11・12月・2023年1月（628号）、2・3・4月（629号）  
（計4回）

#### 4. 収益事業

当財団が持分を有する日本キリスト教会館の一部を以下の4団体に賃貸した。公益財団法人早稲田奉仕園、日本基督教団出版局、特定非営利活動法人スペシャルオリンピックス日本・東京、日本基督教団全国教会婦人会連合、公益財団法人東京YMCA

#### 5. 指定寄付金使用による日本家屋改修

日本家屋の消火器および火災受信設備の更新を指定寄付金より実施した。（107,910円）2023年3月末の指定寄付金残高は189万円となった。

#### 6. 再興募金（関西セミナーハウス再興のために）

臨時休館後の関西セミナーハウス諸設備の修繕・維持管理を中心に周辺環境の整備、設備拡充、また当財団における諸活動の充実のための募金活動を行い、利用者・取引先・賛助会員・財団関係者などから116件・総額627万円の寄付金収入があった。

#### 7. 雇用案件

2021年3月退職の元従業員からの「地位確認請求事件」について、2022年11月9日京都地裁において原告の請求はすべて棄却、原告は控訴せず11月29日確定となった。

#### 8. シュペネマン氏記念会

本法人の運営に長く携わり、理事長をはじめ多くの責任を担ってこられ、2021年2月に逝去されたシュペネマン・クラウス氏のご功績を確認するとともに。今後のアカデミー運動を共に考え、共有することを趣旨として記念集会を実施した。

日程 2022年10月7日・8日 場所 関西セミナーハウス

## II 関東活動センター

### 1. 組織（2023年3月31日現在）

#### 1) 運営委員会

運営委員 戒能 信生（運営委員長）、  
原 牧人、古賀 博、郡山 千里、西川 嗣夫、平井 祐美子、  
進藤 重光、浦上 充、東矢 高明（計9名）

#### 2) スタッフ

所長代行 原 牧人  
ボランティア・スタッフ 神保 信子（事務局）

### 2. 運営委員会

第1回 2022年4月22日（木）（リモート開催）

Covid-19 感染症の影響で、運営委員会は当面リモート開催とす

ること、新年度各講座のリモート開催による諸問題などについて協議した。

第2回 2022年7月21日（木）（リモート開催）  
各プログラムの進行状況の報告や、リモート開催による諸問題への対応、また感染予防方策などについて協議した。

第3回 2022年10月6日（木）（リモート開催）  
Covid-19の感染拡大が続く中で、各プログラムの進行状況を確認。共同研究『コロナ後の教会の可能性』出版について協議、次年度以降のプログラムの可能性について協議した。なお2023年3月に予定されていた第12回神学生交流プログラムをリモートで開催することを確認した。

第4回 2022年12月1日（木）（リモート開催）  
主な決議：次年度の新規プログラムの可能性、事業計画、賛助会員・寄付金の募金など。

第5回 2023年3月23日（木）（リモート開催）  
主な決議：今年度のプログラム状況の検討と反省、次年度の事業計画について協議した。

### 3. プログラム活動

#### 1) フォーラム事業

##### (1) 関東フォーラム 今日の課題Ⅰ

2021年度の共同研究「コロナ後の教会の可能性」の成果をキリスト新聞社より刊行（2023年4月）

##### (2) 関東フォーラム宗教対話Ⅰ

連続講座「日本キリスト教史を読む」第Ⅰ期（大正篇 アンコール開講）講師・戒能信生（千代田教会牧師）、全面リモート開講（Zoom）、受講登録者数約70名

第1回 5月12日（木）「救世軍の指導者山室軍平の生涯と信仰」

第2回 6月9日（木）「ホーリネス教会の指導者中田重治の生涯と信仰」

第3回 7月14日（木）「高倉徳太郎 その自我との闘いの生涯と信仰」

第4回 9月8日（木）「金井為一郎 その神秘主義的信仰と祈りの生涯」

第5回 10月13日（木）「賀川豊彦 その生涯と贖罪愛の信仰」

第6回 11月10日（木）「植村環 女性教師としての生涯と信仰」

第7回 12月8日（木）「矢内原忠雄の生涯とその人格的信仰」

仰」

(3) 関東フォーラム 宗教対話Ⅱ

連続講座「キリスト教文学に学ぶ」講師・柴崎聰、全面リモート開催、受講登録者19名

- 第1回 4月20日(水)「井上ひさし『父と暮らせば』」
- 第2回 5月18日(水)「遠藤周作『侍』『沈黙』」
- 第3回 6月29日(水)「山本周五郎『柳橋物語』」
- 第4回 9月7日(水)「芥川龍之介『奉教人の死』」
- 第5回 9月21日(水)「詩を読む 山村暮鳥と八木重吉」
- 第6回 10月19日(水)「大岡昇平『野火』」
- 第7回 11月16日(水)「三浦綾子『氷点』」
- 第8回 1月18日(水)「北條民雄『いのちの初夜』」
- 第9回 2月15日(水)「柳田邦夫『犠牲』」
- 第10回 3月15日(水)「詩を読む まどみちお、坂田寛夫」

(4) 関東フォーラム 宗教対話Ⅲ

連続講座「キリスト教と美術」講師・太田智子(山梨県立美術館学芸員)、全面リモート開催、受講登録者数24名

- 第1回 5月20日(月)「ビザンチン美術から中世まで」
- 第2回 7月25日(月)「初期ルネサンス」
- 第3回 8月29日(月)「16世紀ルネサンス」
- 第4回 10月31日(月)「北方ルネサンス」
- 第5回 11月28日(月)「バロック美術 イタリア」
- 第6回 1月30日(月)「バロック美術 スペイン、フランドル」
- 第7回 2月27日(月)「バロック美術 ネーデルランド」

(5) 関東フォーラム 宗教対話Ⅳ

柏木義円公開講演会、講演「柏木義円の日記を読む」講師・戒能信生、大久保正禎、川口葉子、全面リモート開催、受講者約30名 共催 柏木義円研究会  
2022年11月19日(土)

2) 研修・セミナー・体験交流事業

(1) 神学生交流プログラム

第12回神学生交流プログラム

2023年3月15日(水)～16日(木)

校長 神田健次(関西学院大学名誉教授)

講師 荒瀬牧彦(日本聖書神学校教授)

委員 古賀博、浦上充、戒能信生、吉岡恵生

Covid-19 感染症の影響を考慮して、全面リモートで、2 日間にプログラムを短縮して実施した。様々な限界はあったが、講師や参加神学生の積極的な参加によって充実したプログラムになった。参加神学生・15名 講師・スタッフ6名

(2) 聖書を教材として用いる講座

①聖書を読む講座Ⅰ 「新しい聖書の学び マルコ福音書をじっくり読むⅥ」講師・山口里子、全面リモート開催、受講登録者68名

第1回 4月12日(火)

第2回 5月10日(木)

第3回 6月14日(火)

第4回 7月12日(火)

第5回 9月13日(火)

第6回 10月11日(火)

第7回 11月8日(火)

第8回 12月13日(火)

第9回 1月10日(火)

第10回 2月14日(火)

4. 評価と展望

- 1) 2022年度関東活動センターの運営は、前年度に引き続き Covid-19 感染拡大の中、すべての講座をリモート開催とせざるを得なかった。しかしかえって全国各地、また海外からも参加者があり、予想を超える参加者を得ることができた。しかし対面、あるいは発声を伴うプログラムは、今年度もほとんど中止せざるを得なかった。
- 2) キリスト教会館1階の事務所も、感染拡大期には月に一度程度の開室とし、ボランティア・スタッフの神保信子さんの協力を得て、かろうじて事務局体制を維持することができた。
- 3) 神学生交流プログラムは、2日間に短縮しリモート開催としたが、福音派の神学校からの参加もあり、充実したプログラムとなった。次年度は是非、対面で実施したいと願っている。
- 4) プログラムの中で、特に早稲田奉仕園との共催プログラムについては、リモート開講などの体制について多大な協力を得た。今後とも、早稲田奉仕園との協力体制を整えていくこととしたい。
- 5) 2021年度に実施した共同研究「コロナ後の教会の可能性」の成果を出版するためにその出版協力費の捻出や様々な困難があったが、2023年4月にキリスト新聞社からブックレット『コロナ後の教会の可能性 危機下で問い直す教会・礼拝・宣教』として刊行された。
- 6) 2022年度、新しく「キリスト教と文学」「キリスト教と美術」など

の連続講座を実施したが、期待に反して多数の受講者を得ることができなかった。内容的にはきわめて優れた講座であったので、宣伝力の不足を痛感している。

### Ⅲ 関西セミナーハウス活動センター

#### 1. 組織（2023年3月31日現在）

##### 1) 運営委員会

運営委員 小久保 正（委員長）、網野 俊賢、榎本 栄次、小笠原 純、織田 雪江、鳥井 清司、Christian Morimoto Hermansen、丸山 まり子、村上 みか、柳井 一朗、山本 知恵、山本 俊正（計 12名）

##### 2) スタッフ

所長代行 榎本 栄次  
事務局 都木 かおり

#### 2. 運営委員会

##### 第1回 2022年4月16日（土）（ウェブ併用）

主な決議：6～7月のプログラム。寄付金依頼書承認。修学院フォーラム参加費承認。ウクライナ侵攻緊急企画。

継続審議：「もみじまつり」企画。

##### 第2回 2022年5月13日（金）

主な決議：7月プログラム、修学院フォーラム「社会」第2回要項と予算、「福祉」第2回要項と予算。2021年度事業報告案、収支報告確認。

継続審議：学生向け広報、新規参加者開拓について。

##### 第3回 2022年6月11日（土）（ウェブ併用）

主な決議：9月以降プログラム、修学院フォーラム「いのち」第2回要項と予算。

継続審議：シュペネマン記念プログラム 準備会開催。

##### 第4回 2022年7月23（土）（ウェブ併用）

主な決議：9月以降プログラム、開発教育セミナー第3回 要項と予算、第4回要項と予算、新規「沖縄から問う」（仮）承認。2022～2023年度開発教育運営委員承認。10月運営委員会日程変更。

継続審議：シュペネマン記念プログラム 企画進捗、記録集作成検討、案内発送予定・リスト検討。

##### 第5回 2022年9月3日（土）（ウェブ併用）

主な決議：10月以降のプログラム、修学院フォーラム「いのち」第3回改題、要項と予算、新規提案 開発教育協力プログラム（主催沖縄県）協力承認。

継続審議：「もみじまつり」従来企画は行わずオープンハウス

検討。ヘアマンセン委員提案滞在型プログラム。シュペネマン記念会。広報効率化検討。

- 第6回 2022年10月1日（土）（ウェブ併用）  
主な決議：11月以降のプログラム、修学院フォーラム「社会」第4回要項と予算、開発教育セミナー第6回要項と予算、修学院フォーラム（社会）「エネルギーを考える第10回」要項と予算、寄付金募集。運営委員会陪席者推薦承認。クリスマス寄付金依頼の件。  
継続審議：ヘアマンセン委員提案滞在型プログラム。使途指定寄付金設置提案。
- 第7回 2022年11月12日（土）（ウェブ併用）  
主な決議：11月以降のプログラム、修学院フォーラム「福祉」第3回、要項はメール回付。クリスマス寄付発送予定。  
継続審議：2023年度プログラム計画、予算。使途指定寄付。
- 第8回 2021年12月3日（土）（ウェブ併用）  
主な決議：11月以降のプログラム、開発教育協力プログラム、修学院フォーラム「福祉」第4回、要項はメール回付。今年度プログラム総括表による次年度検討。  
継続審議：2023年度プログラム計画、予算。使途指定寄付。
- 第9回 2023年1月14日（土）（ウェブ併用）  
継続審議 2023年度プログラム計画、予算。使途指定寄付。
- 第10回 2023年2月4日（土）（ウェブ併用）  
主な決議：運営委員退任に伴う新任委員推薦承認。開発教育運営委員補充委嘱承認。  
継続審議 2023年度事業計画案、予算案。使途指定寄付。
- 第11回 2023年3月4日（土）（ウェブ併用）  
主な決議：4月活動予定 2023年度修学院フォーラム「いのち」第1回 要項、予算。使途指定寄付内規案。2023年度寄付願い案修正承認。2023年度運営委員会日程。

### 3. プログラム活動

#### 1) フォーラム事業

##### (1) 修学院フォーラム 社会

目的 ジェンダー、新資本主義、沖縄、原発などの問題を共に考える。

第1回 題「『ジェンダー正義』をめぐる

エキキュメニカルな議論と実践」

2022年5月21日（日）ウェブ、会場併用

講師 藤原佐和子（立教大学文学部キリスト教学科兼任講師、日本キリスト教協議会（NCC）書記）

参加者 15名

- 第2回 題「日本はこれからどうなるのか？」  
2022年7月2日(土) ウェブ、会場併用  
講師 内田 樹 (神戸女学院大学名誉教授)  
参加者 42名
- 第3回 題「今なお差別される沖縄」  
2022年8月6日(土) ウェブ、会場併用  
講師：金井 創 (日本キリスト教団佐敷教会牧師)  
参加者 24名
- 第4回 題「性と生を考えるークィア神学の視点から」  
2022年12月3日(土) ウェブ、会場併用  
講師：堀江 有里 (信仰とセクシュアリティを考える  
キリスト者の会 (ECQA) 代表)  
参加者 13名
- 第5回 題〈エネルギーを考えるー10〉  
「原発回帰に未来はあるのか」  
2023年1月8日(日)～9日(月祝) ウェブ、会場併用  
講師：細川弘明 (高木仁三郎市民科学基金理事、京都  
精華大学名誉教授)  
フランク・レーヴェカンプ (ドイツルートヴィ  
ヒスハーフェン経済大学教授)  
木村護郎クリストフ (上智大学外国語学部ドイ  
ツ語科教授)  
参加者 28名

(2) 修学院フォーラム いのち

目的 気候変動やパンデミックの世をいかに生きるかを考える。

- 第1回 題「世界の農村指導者と『共に生きるために』を目指して  
～アジア学院50年の働き～」  
2022年4月23日(土) ウェブ、会場併用  
講師 荒川 朋子 (アジア学院校長)  
参加者 19名
- 第2回 題「人類と福祉ーその淵源を探る」  
2022年9月23日(金・祝)～24日(土) 対面開催  
講師：月本 昭男 (古代オリエント博物館館長)  
参加者 36名
- 第3回 題「禍にある霊性ー今を生き延びるためのアーカイブ」  
2022年11月5日(土) ウェブ、会場併用  
講師：榎本 空 (ノースカロライナ大学チャペルヒル校  
人類学専攻 博士課程)  
参加者 20名

(3) 修学院フォーラム 福祉

目的 医療、ケア、貧困などの問題を考える。

第1回 題「外国人が医療を受けるまでの壁」

2022年6月4日（日）ウェブ、会場併用

講師 青木 理恵子（特定非営利活動法人CHARM  
事務局長）

参加者 21名

第2回 題「コロナ禍と戦禍のあいだで、ケアの倫理を考える」

2022年7月9日（土）ウェブ、会場併用

講師：岡野 八代（同志社大学グローバルスタディーズ  
研究科教授）

参加者 11名

第3回 題「生きづらさの声を聴くーコロナ禍の子ども・若者の権利侵害」

共催・会場（公財）京都YWCA ウェブ、会場併用  
2023年1月28日（土）

講師：長瀬 正子（佛教大学社会福祉学部准教授）

参加者 20名

第4回 題「東九条こども食堂の試みから」

2023年3月18日（土）会場、ウェブ併用

講師 許 伯基（前在日大韓基督教会京都南部教会牧師）

参加者 19名

## 2) 研修・セミナー・体験交流事業

### (1) 開発教育セミナー [対面開催]

目的 人権・平和・環境などの地球的課題を参加型学習で学び、  
私たちの社会のありようを考える。

第1回 題「開発教育入門セミナー

～SDGs（持続可能な開発目標）を自分ごとに」

2022年6月19日（日）会場、ウェブ併用

講師 西上 壽一、佐藤 友紀（関西セミナーハウス  
活動センター開発教育研究会）

参加者 16名

第2回 題「自分たちで「公共」をつくりなおす

～時代の曲がり角を突破する力を求めて」

2022年7月16日（土）～17日（日）

講師 松村 圭一郎（岡山大学文学部准教授）

参加者 12名

第3回 題「『難民』から世界の今を考える

～一人ひとりの物語からはじめよう～」

2022年9月3日（土）～4日（日）

講師 小俣 直彦（オックスフォード大学国際開発学部  
准教授）

参加者 11名

第4回 題「食べることを世界の真ん中において、世界のあ  
り方を根源から見直す」

2022年10月15日（日）

会場 京都市国際交流会館

講師 藤原 辰史（京都大学人文科学研究所）

参加者 23名

第5回 題「わたしが見つけた多文化共生

ともに生きる社会のかたちをみつけよう！」

2022年11月12日（土）～13日（日）

講師 藤井 邦洋（NPO 法人ともにいきる宝塚 理事）

参加者 9名

第6回 題「気候危機から目をそらさない！

～待ったなしの10年へ歩み出すときは今～」

2022年12月10日（土）～11日（日）

講師 伊与田 昌慶（国際環境NGO 350.org Japan）

参加者 12名

(2) お茶のころと宗教のころプログラム

開催なし。

(3) 展示、講演会事業

もみじまつり

活動センター企画は実施なし。

#### 4. 評価と展望

1. 長い間休館していた関西セミナーハウスが部分的に再開されたので、多くのプログラムにおいて、講師をハウスへ迎え、対面でプログラムを開催することができた。いくつかのプログラムにおいては、久しぶりに、宿泊を共にして集会を持つことが出来、内容豊かな会となった。
2. しかし、自然豊かなハウスの静かな環境を生かし、そこで講師と参加者が時間をかけて、多面的に考え合い、考えを深める集会を持てるまでに至っていない。来年度には、是非それを実現したい。ただし、オンライン方式も生かし用い、遠方の人も距離を越えて参加できる特徴を生かし続けたい。
3. 多くのプログラムは、講師の承認を得て録画され、後日 Youtube により希望者に配信されるようにしているが、未だどんなプログラムが配信可能であり、どうすれば配信を受けられるかが分かり難い。これらが早急に改善され、録画プログラムが多くの市民により視聴され、クリスチャン・アカデミーの存在感が高められことが期待される。

#### IV 関西セミナーハウス

##### 1. 組織（2023年3月31日現在）

###### 1) 経営委員会

経営委員 神崎 清一（委員長）、神保 正男、  
中村 信博、柴田 賢司、森口 明洋（計5名）

###### 2) 人事委員会

人事委員 神崎 清一（委員長）、神保 正男  
柴田 賢司、森口 明洋（計4名）

###### 3) 館長 森口 明洋

###### 4) スタッフ 嘱託1名

##### 2. 事業実績

###### 1) 利用状況（カッコ内は前年度比、資料参照）

###### ① 年間の延宿泊者数

上期 467名

下期 1077名

合計 1544名（342%）（前年より1093名増）

###### ② 個人団体比率

団体 1543名（構成比99.9%）

個人 1名（構成比0.1%）

###### 2) 公益目的事業と収益事業分類別

###### (1) 宿泊分類別

###### ① 公益目的事業

・アカデミープログラム 121名

・キリスト教諸団体 185名

・教育関係・学会・研究会 137名

・労働組合・文化・社会活動団体 397名

・一般諸団体 102名

合計 942名

###### ② 収益事業

・一般諸団体 414名

・一般企業 28名

・人材育成法人 159名

・個人 1名

合計 602名

###### (2) 当日利用分類別

###### 公益目的事業

・アカデミープログラム 90名

・キリスト教諸団体 50名

・教育関係・学会・研究会 27名

・労働組合、文化・社会活動団体	139名
・一般諸団体	120名
合計	426名

### (3) 宿泊及び当日利用合計

公益目的事業	942名 (構成比 69.4%)
収益事業	602名 (構成比 30.6%)

### 3) 損益実績 (資料参照)

- ・年間宿泊者数は目標2300名に対し1554名(68%)であった。上半期は1団体貸切営業していたことと、8月までコロナ再流行のためキャンセルが相次いだため宿泊者数が伸びず、下半期は2団体相客する受入れを開始し宿泊団体数も上期より600名以上増えたものの目標に届かなかった。
- ・売上実績は計画3362万円に対し25,297,053円(75%)であった。
- ・宿泊利用団体の分類別内訳は10月に2週間半利用の労働組合を除くと、よく週末に利用する趣味のワークショップ等の一般諸団体が全体の26%が最多で、コロナ前に最多であった教育関係・学会・研究会は137名(9%)と戻りつつあるが、かつて上位を占めていた一般企業は28名(2%)と激減している。
- ・支出実績は、売上原価1765万円(前年比300%)、一般管理費2302万円(前年比100%)である。
- ・その結果、営業利益は、△1540万円と計画から460万円の増となる。最終収支は△1515万円(損益計算書)であり、寄付金による設備投資を考慮した収支実績は△361万円であった。
- ・営業外収益は、国の電気料金負担軽減策20万円の補助金があった。

### 4) 資金繰り

3月末の現金および預金の残高は421万円である。その内、清心会残高を差し引き、関西セミナーハウスの実質的な次期繰越金は190万円の実績である。

### 5) 寄付金

財団として関西セミナーハウス再興のための募金を行ったため、関西セミナーハウス単独で寄附金募集は実施していない。関西セミナーハウス再興のための募金収入は627万円である。

### 6) 広報活動

- ・ホームページへの訪問回数は、前年度比131%(22,407回)であり、コロナ流行の2020年度(20730回)を上回った。
- ・ホームページのブログ更新回数は5回、Instagramを11月より始め、19回更新した。

## 3. 評価と展望

## 1) 運営状況

- コロナの感染状況を踏まえ段階的な開業に取り組んだ本年度は、前年度同様に1団体貸切営業・客室は原則シングル利用で始め、下期以降は複数団体の同時受入れや家族以外の相部屋利用を解禁した。客室の利用状況はシングル希望がしばらく続き、3月になってようやくツイン等の相部屋利用が半数まで増えた。
- 個人宿泊プランについては休止が続いた。問合せは増えてきていたが、宿泊団体が無い日が半数以上を占めており、個人宿泊プランの再開は難しかった。個人宿泊客の受け入れ態勢がまだ十分でないため、団体の予約状況と要員計画に応じて検討するが、まず次年度はシーズン毎のイベントを通じて限定的な個人宿泊プランを実施する。また、休止しているロビーでの喫茶営業も同様な実施方法を検討する。
- コロナ感染防止対策だけでなく、休業や経年劣化による設備故障のため閉鎖していた大浴場は、設備の修繕や配管洗浄を実施し10月から稼働することができた。
- 食堂について、横並び着席やアクリル板の設置等の対策を行ってきたが、政府の指針が変わった3月中旬にこれらを廃止し、セルフサービスを含むコロナ流行前のレイアウトに戻した。業務委託費について、利用予約が安定しないため条件が厳しく、売上に対しほぼ100%であった。3月には新たに業務委託契約を結んだが利用者が増えない間は状況に変わりがない。契約期間が半年間のため次年度夏ごろをめどに契約内容の見直しを打診する。
- 人員について、旧職員（パート）に声を掛けて4月下旬からフロントと客室に各1名パートスタッフが入り、館長、会計、宿直を含むパートの計5～6名体制で1年間業務を果たした。客室の人員不足だった10月の2週間半は外部委託により補った。
- 事務所移転について、7月に本館1階事務所の改装工事を行い、コロナによる休館以降は日本家屋の「別館和室さくら」にあった事務所を元の本館1階に戻し、フリースペースを新たに設けるなどレイアウトを変更した。
- 会議室改装について、複数団体同時受入れの障壁となっていた老朽化した会議室2室の改装工事を2月から3月にかけて行った。アゴラホールはLED照明への更新や壁紙・カーペットを張替え、かねてから反響により声が聞き取りづらかった問題を四方に吸音カーテンを設置することで解消した。窓が無い弱みを払拭し、オンライン併用の会議やパーティー、ワークショップなど多目的に利用できる魅力的なホールとなった。中会議室も内装を一新し明るい雰囲気へと変わり、出入口扉を外開きに変更し利便性が向上した。メインの大会議室以外の会議室2室を改装できたことによって、複数団体の受入れや日帰り会議室利用団体の集客に向けて有利に働くようになった。

## 2) 設備投資と修繕費

設備投資について、80万円計画したが、再興のための募金を実施し大幅に内容を追加した。寄付金により昨年度から課題であった別館和室の再利用（事務所本館移転）、大浴場の稼働、厨房大型冷蔵冷凍庫の購入、1階喫茶厨房の湯沸し器買替を達成することができた。本年度中事案として、主に1階トイレ防水工事、客室空調機入替（2室）を実施した。次年度以降の課題として事務所およびロビー北側空調機入替、会議室空調機入替、本館外壁補修、茅葺門葺き替え等の工事がある。

添付資料：2022年度関西セミナーハウス損益計算書実績

（ 以 上 ）